

第 29 回有害・医療廃棄物研修会

特別企画：「新型コロナウイルス及びそれに関連した廃棄物処理」 講義概要

「廃棄物処理に求められる脱炭素」

有害・医療廃棄物研究会会長（廃棄物工学研究所・所長） 田中 勝

地球環境問題に対応するために日本は脱炭素社会の実現に取り組むことを宣言しました。廃棄物処理に伴う温室効果ガスの排出を 2050 年までに実質ゼロにする必要があり、それには**廃プラスチックの対策**が重要です。**脱炭素社会に貢献する医療廃棄物の処理**は 3R 推進とエネルギー回収を伴う焼却を基本として、医療廃棄物の発生抑制と適正処理を確保することです。これからは生産者や消費者の理解と協力で実現する脱炭素社会に求められる**理想的で現実的な医療廃棄物処理**について考察します。

基調講演

「新型コロナウイルス感染症を踏まえた感染性廃棄物等の処理について」

環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課 主査 寺西 制 氏

講師である環境省の寺西氏は、新型コロナウイルスが騒がれ始めた当初から、**新型コロナウイルス感染症に係る廃棄物処理に関する施策をご担当されてきた方**です。昨年の 9 月の講演会でも直接ご説明をいただきました。大変好評でしたので、今回の研修会でも特別にお願いして引き受けてもらいました。国の担当者から直接疑問に答えていただくまたとない機会です。多くの関係者が疑問に思っている質問がある方は事前に事務局にお寄せください。出来るだけ答えていただけるようお願いしてみます。

「新型コロナウイルス感染症のパンデミック/データからの国際比較」

廃棄物工学研究所 客員研究員 河上 勇 氏

1. 公衆衛生と疫病について基礎的・歴史的な観点、2. 新型コロナウイルス感染症のパンデミック/国際比較など日々アップデートされるあまたある全世界の詳細なデータ群からの各国比較を紹介する。
3. 生活習慣・対処政策・廃棄物処理の国地域別の違いと死者数などの関連に関して門外漢ながらの考察、4. 医療廃棄物の増大と適正処理、生活・消費行動変化による**一般廃棄物・事業系廃棄物・食品廃棄物の量と質の変化**に対応できていた理由、現状の危うさや課題の検証方法も提案する。

「新型コロナウイルス感染患者からの廃棄物の回収、処理の実態/自ら体験して」

有害・医療廃棄物研究会学術部員 鈴木 知巳

最近の新型コロナ感染者の爆発的増加と医療廃棄物の急増から、医療崩壊や医療廃棄物処理崩壊が危惧されます。**新型コロナ感染者病棟内での廃棄物の保管管理や回収等の実態に関する観察**を通じて、廃棄物処理崩壊を防ぐ観点から、医療関係機関と感染性廃棄物処理業者がお互いの立場を理解し、協力関係を構築するための課題や改善策などについて報告します。

「身近な感染防止策の原理と実際」

有害・医療廃棄物研究会副会長（元国立感染症研究所） 木ノ本雅通

コロナに限らずインフルエンザや結核などの呼吸器感染症に対して、個人が比較的容易に感染予防できる用具としてマスクの利用は有効な手段です。しかしすべての人がマスク着用の意味やその原理等について熟知しているとは思われない状況が散見されます。そこで、マスクの着用がより有効なものとなるように、感染の基礎知識をはじめ、マスクによって阻止できる「**飛沫（しぶき）**」（感染源＝病原体）の**性状やマスクの性能**などを中心に解説します。